

五方の辻碑

この道しるべは、名取奥野三社の一つである郡智神社の参道入り口にあたるお飯宮（一の鳥居通称所）の前に建っており、市西部丘陵沿いを南北に走る奥街道の傍らにあって、5つの古道が合流し、分岐する交通の要所にもあたることから五方の辻といわれています。

自然石の五面体で東・西・南・北・南西方向の行き先を示しており、正面（東面）の上部に道中安全を祈る延命地藏菩薩像が彫刻され、そのすぐ右に享保二年（1771）三月十七日の年月日を下部に「せんたい、中田町、ゆり上、ました町みち」「吉田村象」と目的地を示しています。他の4面についても、北側が「くまのしんくう、ほんくう道」、西側に「なち山これより十六丁、つはぬまみち」、西南側が「すかう田丁、川さき町、村田町」、南側が「いまくまの、たうそ神道」とそれぞれの方角の目的地を彫っています。このような五面体形式の石に五街道の目的地を彫ったものは県内でも珍しいものです。



IV-2



IV-3



IV-4-1



IV-4-2

IV-1



IV-5



IV-6-1



IV-6-2



IV-7
H14-13